

新春旗開き議長挨拶



日頃より、学研労協の活動に、ご理解とご協力を賜り、深く感謝申し上げます。

筑波研究学園都市地区に立地する研究機関等の労働組合で構成する協議体である学研労協は、組合員の生活と権利を守り、研究条件や労働条件の改善と社会的地位の向上をめざして活動しています。

今般、全世界で猛威を振るう新型コロナウイルス感染症は、国内においても第3波の急激な広がりの中、2回目となる緊急事態宣言が11都府県を対象に行われ、茨城県も独自の緊急事態宣言を1月18日に発令しました。国内では感染者33万人、死者は4500人を超え、つくば市でも450人を超える感染者が確認されています。感染者の増加に伴い、医療の現場では、感染重症者医療の崩壊が起きつつあり、新型コロナウイルス感染症以外の医療にまで影響が出始めています。医療の現場の負担が軽減できるよう、私たち一人一人ができる感染対策を徹底し、集団免疫の獲得・効果的な治療薬が開発されるまで、気を引き締めて継続していく必要があります。一方、コロナ関連で8万人を超える労働者が解雇や雇止めとなり、このうち半数近くを派遣やパートなどの非正規が占めています。雇用の回復を待たずして、自助や共助では限界となる生活困窮者の拡大が懸念されます。新型コロナウイルス感染症は、全世界の社会・経済システムを大きく変貌させており、今後、私たちはこれまで経験したことのないライフスタイルや働き方を迫られるようになるのではないのでしょうか。

さて、本年の新春旗開きは、3密や対面を避けるため、リモートでの開催となりました。新型コロナウイルス感染症への対応のみならず、次期中期目標、運営費交付金、賃金格差や長時間労働など職場内外で様々な課題に直面しています。こういうときこそ、労働組合の存在意義と果たす役割は大きく、一致団結して立ち向かいましょう。

最後に、本年が皆様にとって健やかで実り多い年であることを祈念し、新春旗開きのあいさつといたします。